



株主のみなさまへ

2020年4月1日  
→ 2021年3月31日

# 第81期 決算報告書



代表取締役社長

大喜多治年

### ごあいさつ

株主の皆さまには、平素より格別のご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に罹患された方々、及びそのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。

又、長期に亘る新型コロナウイルス感染症への対策やワクチン接種体制確立に日々ご尽力くださっている医療従事者を始めとする関係者の皆さまに、深く御礼申し上げます。

### 2021年3月期の業績について

当連結会計年度は、世界的な新型コロナウイルス感染症(以下「感染症」)拡大の影響による移動制限や経済活動の停滞などにより、各国経済は深刻な影響を受けました。その後、感染症のワクチン接種が開始されましたが、依然として感染症収束の兆しが見えないことから経済回復には厳しい状況が続いています。このようななかで、世界的な株高の影響もあり、ドル円為替相場は

対米ドル円レート102円台を底に110円台まで円安方向へ進みました。

航空輸送業界では、感染症の世界的拡大の影響でかつてない規模の減便や運休などにより経営環境は大きく悪化しており、各エアラインは大幅な人員削減を余儀なくされています。経済活動の再開に合わせて、様々な感染対策をとったうえで国内線需要は少しずつ回復してきているものの、国際線需要については引き続き厳しい状況が続いています。又、航空機メーカーにおいても、航空需要の急激な落ち込みにより、ボーイング、エアバス共に大幅な減産が実施される状況になりました。

感染症の収束時期が不明な状況下、当社グループでは、当面は厳しい経営環境が続くものと想定し、将来の航空需要回復に備え、全社レベルで業務プロセスの改革、生産体制の効率化を推進し、品質と収益力の向上を目指すと共に、人員及び経費の削減、投資抑制、拠点整理、在庫削減等の経営の効率化を行いました。又、感染防止対策を

### 技術のジャムコは、士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

徹底すると共に、在宅勤務、シフト勤務の導入、職場における作業エリアの分散など接触率の低減に努め、急激な仕事量減少については一時帰休やグループ外出向などにより臨機応変に対処しました。

航空機内装品等製造関連・航空機シート等製造関連においては、航空需要の急激な落ち込みに対応するため、生産計画の緊急見直しを行うと共に、生産拠点の再編を行いました。又、お客様が航空機に搭乗する際に抱く不安を少しでも解消できるように、清潔で衛生的なキャビン作りのための製品開発にも取り組みました。受注高は、航空需要の急激な落ち込みから航空機メーカーの大幅な減産が実施されたことや、エアラインからの受注の一部延期やキャンセルにより、前期に比較して大きく下回る結果となりましたが、1月以降には、ワクチン接種の効果が確認されたことから、エアラインから感染症拡大の収束を見込んだ引き合いや受注が増加しています。

航空機器等製造関連においては、生産性改善の取組みを進めると共に、これまで培った加工技術を生かし、内装品関連を始めとした部品の内製化を進めました。又、熱可塑性炭素繊維強化プラスチックを活用した航空機用軽量機体部材の開発を進めています。

航空機整備等関連においては、飛行安全の確保と品質向上の取組みを継続すると共に、エアライン、官公庁向け整備の受注に努め、安定した収益を上げることのできる事業基盤の構築を目指しました。

この結果、当連結会計年度の経営成績は、売上高50,058百万円(前期比41,477百万円減)、営業損失10,902百万円(前期は、営業利益1,807百万円)、経常損失11,756百万円(前期は、経常利益1,178百万円)、親会社株主に帰属する当期純損失13,585百万円(前期は、親会社株主に帰属する当期純利益605百万円)となりました。

### 今後の見通し

現時点において感染症拡大の収束時期は依然として不透明な状況が続いており、当社グループが関連する航空輸送業界では、感染症拡大の影響により旅客需要の急減を受け、世界のエアラインの経営環境は大きく悪化しています。又、航空機メーカーは、航空需要の急減を受け大幅な減産を余儀なくされていますが、感染症のワクチン接種が開始されたことなどにより、航空需要は2021年度から徐々に回復することを予想しています。

このようななかで当社グループでは、2021年度は未だ厳しい経営環境が続くと想定し、将来の航空需要回復に備え全社レベルで業務プロセスの改革、生産体制の効率化を推進し、品質と収益力の向上を目指すと共に、経費削減、投資抑制を図ることにより筋肉質な事業構造を構築し、収益力の改善に努めてまいります。

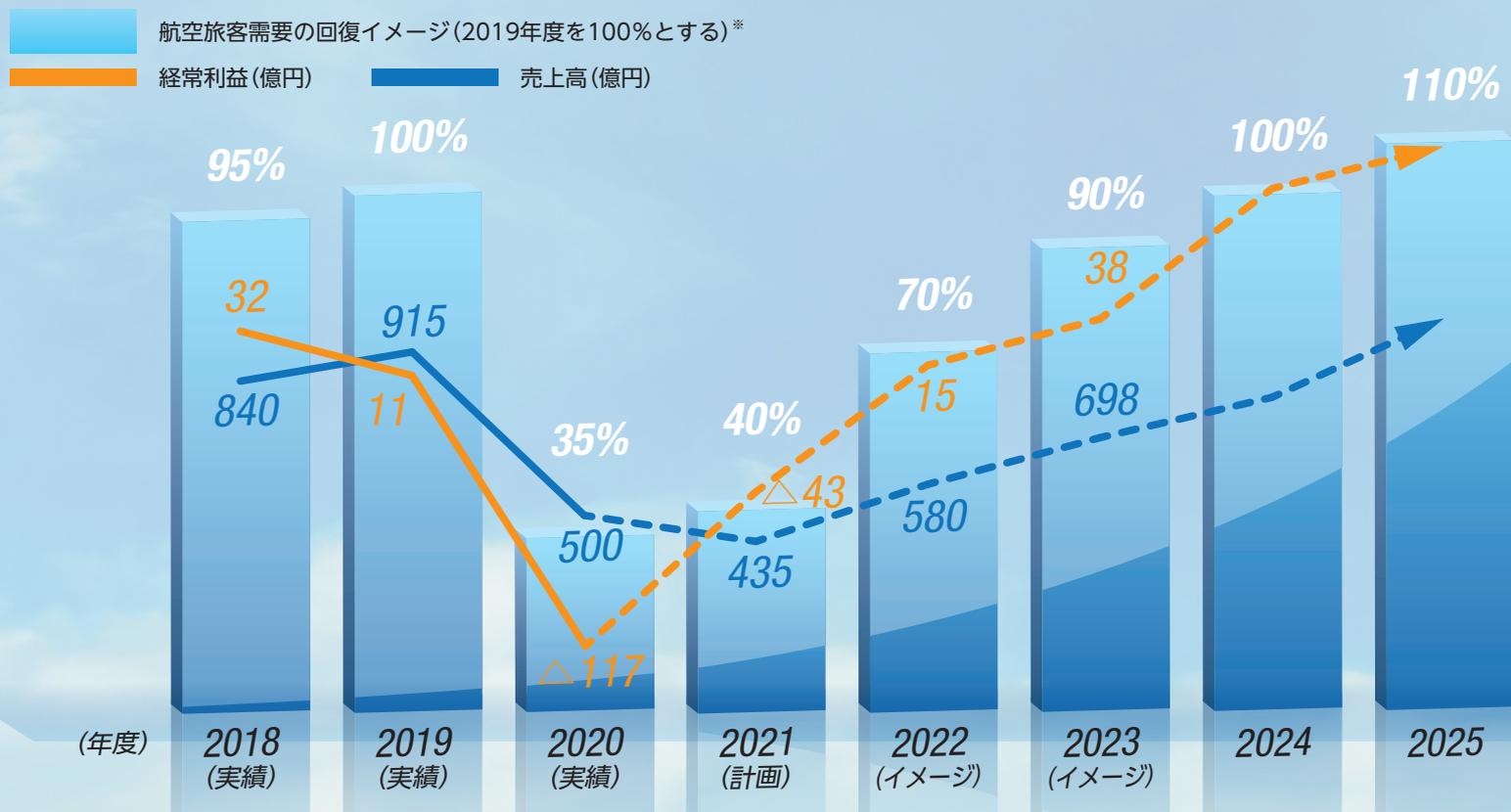
こうした状況を踏まえ、2022年3月期の連結業績見通しは、売上高43,500百万円、営業損失3,980百万円、経常損失4,360百万円、親会社株主に帰属する当期純損失3,120百万円を見込んでいます。なお、前提となる為替レートは、1米ドル当たり103円としています。

又、当社は株主配当に係る基本方針として、効率的経営に努め収益向上を図ること、株主の皆様には安定、且つ継続的に還元することを旨とし、又、当面の間、連結配当性向20~30%を目安に配当額を決定するものとしておりますが、感染症拡大の影響に伴い、当社グループの業績は大きく悪化しており、誠に遺憾ながら当期の配当は無配とさせていただきたく存じます。株主の皆様には、深くお詫び申し上げますと共に、可能な限り早期に復配できるよう努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 2021年度計画及び今後の展望

### 2021年度計画策定の前提

- IATA (国際航空輸送協会) の予測等をベースに航空旅客需要を予測  
2021年度は、2019年度の4割程度の需要。  
コロナ禍以前の規模に需要が回復するのは2024年頃。
- 航空機メーカーの新造機生産は、2021年度は横ばい。2022年度以降、段階的な増産。
- エアライン向けは、スペア部品の需要から徐々に回復。  
2021年度後半から客室改修用内装品や改修用キットの需要が回復。



\*IATA予想値などを参考に当社にて作成

## 中期ビジョンと中期経営方針

### 中期ビジョン

内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の能力を集約し、航空機分野におけるトップクラスの企業となる。

### 中期経営方針

規模の適正化と更なる効率化によって、安定した収益を確保し、事業の多様化・進化を追求する。

## 収益改善の背景

- 規模適正化の効果
  - 2020年度に実施した生産拠点統合、人員削減など規模適正化の効果が2021年度は年間を通じて現れる。(前年度比、約50億円の経費削減効果)
- シート事業の収益性改善
  - 特注品シートの赤字工事は2020年度で概ね完了。
  - ビジネスクラス・シート「Venture」の拡販等により約15億円／年の収益改善を見込む。
- 航空需要回復の手応え
  - スペア部品受注、客室改修用内装品などの引合が増加中。
  - 1月以降、100億円を超える内装品及びシートの受注実績。
- 応需能力の維持
  - 100名超のスキルを有した社員がグループ外へ出向中。
  - 海外製造子会社を含め、需要回復時の設備／人員の復帰余力を維持。
- 業務プロセス改革・DX(デジタルトランスフォーメーション)推進による効率化

## 中期経営指標

### 収益性指標

連結経常利益率

**7%**以上



目標 2024年度達成

### 効率性指標

連結ROA

**7%**以上



目標 2024年度達成

### 安全性指標

自己資本比率

**30%**以上



目標 2025年度達成

### 配当方針

連結配当性向

**20～30%**以上



早期の復配を目指す

# 全社業務プロセス改革プロジェクト

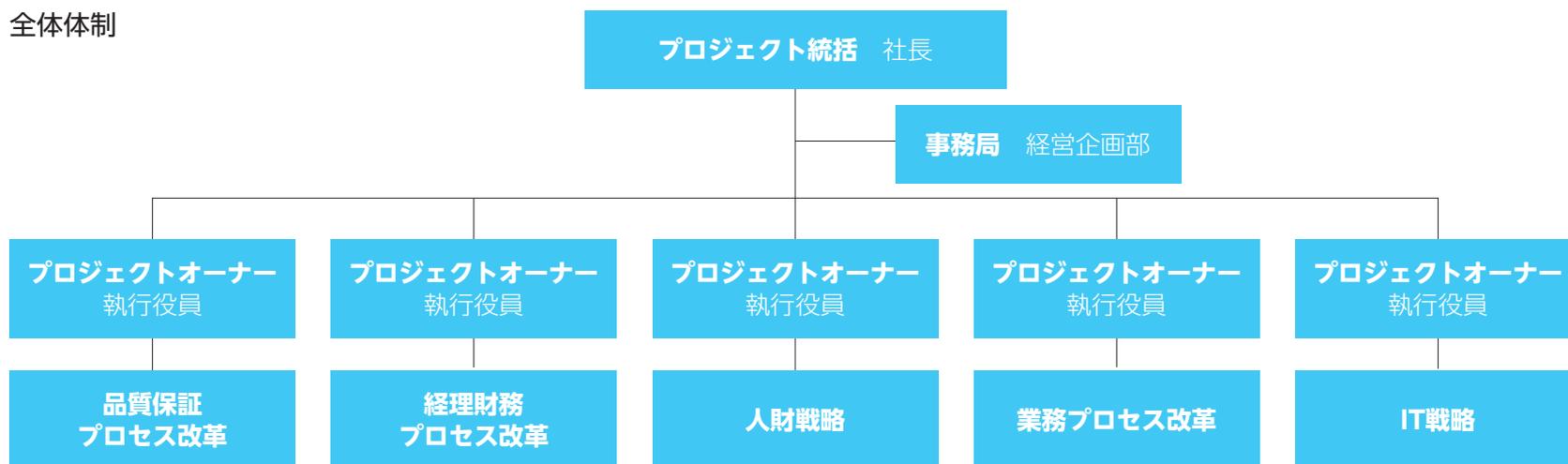
J-LEAD (JAMCO Lean Enterprise Accelerated Development)

2020年度、経営環境が急激に変化するなか、当社は事業を支えるプロセスとシステムの進化に全社一丸となって取り組んでまいりました。本取組みの概要を紹介いたします。改革プロジェクトのうち、継続して取り組むべき品質保証、業務プロセス、IT (DX: デジタルトランスフォーメーション) の分野については、新たに2021年度の目標を設定し、J-LEAD+として引き続き全社業務プロセス改革に取り組んでまいります。

## 取組課題

- 従来の業務プロセスを抜本から見直し、強固な事業基盤の確立と、競争力の強化を図る。
- グローバル・スタンダードに合致する品質保証・業務遂行システムの再構築に取り組む。
- 決算業務フローの見直しと効率化により、決算早期化と決算予測精度の向上を図る。
- 新たな成長期を見据えて、人財登用、育成及び活性化のための改革に取り組む。
- 業務プロセスの合理化を推進すべく、IT Systemの抜本の見直しと再構築に取り組む。

## 全体体制



# 2020年度ダイジェスト

## 2020年6月24日 Project Blue Skyを始動

お客さまが航空機に搭乗する際に抱く不安を少しでも解消できるように、清潔で衛生的なキャビン作りのための製品の開発に取り組んでいます。

**Project  
Blue Sky**

最新の情報はP9と裏表紙をご覧ください。

## 2020年6月30日 経済産業省認定 グローバルニッチトップ企業に選定

世界市場のニッチ分野で勝ち抜いている企業や国際情勢の変化のなかでサプライチェーン上の重要性を増している部素材等の事業を有する優良な企業として、2020年度版「グローバルニッチトップ企業100選」に選定されました。



## 2020年7月1日 (株)新潟ジャムコが 日本航空技術協会より奨励賞を受賞

(株)新潟ジャムコにおける同社作業エリアのネットワーク環境を大きく改善した取組みが高く評価され、公益社団法人日本航空技術協会より「奨励賞」を受賞いたしました。



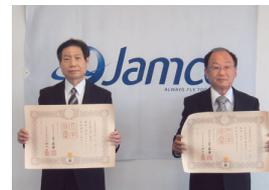
## 2020年9月1日 創立65周年

当社は2020年9月1日に創立65周年を迎えました。1955年以来、65年の長きに渡り事業を続けることができましたのは、株主の皆さまやお取引先等多くの方々に支えていただいたおかげであると厚く御礼申し上げます。



## 2020年11月3日 秋の褒章において黄綬褒章を受章

航空機整備事業部機体整備工場の従業員2名が黄綬褒章を受章しました。航空機整備業務における長年に亘る業務精励が評価されての受章となります。



## 2020年12月4日 一等航空整備士実地試験に2名合格

航空機整備事業部機体整備工場の2名の整備士がこの日新たに一等航空整備士の実地試験に合格しました。当社は人材育成に注力しており、2020年度は合計6名が一等航空整備士実地試験に合格しております。



## 2020年12月25日 (株)JALエンジニアリングより 感謝状を受領

日本航空株式会社の航空機に搭載されている当社製品のスチームオープンにおいて、技術アドバイザー及び緊急部品の手配を行い、航空機の運航オペレーションに貢献したことが評価され、感謝状をいただきました。



## 2021年1月20日 (株)徳島ジャムコが 無災害記録6,000日を達成

(株)徳島ジャムコは、徳島県内の類似規模業種の企業では最長記録になる「無災害(休業災害ゼロ)記録6,000日」を達成しました。



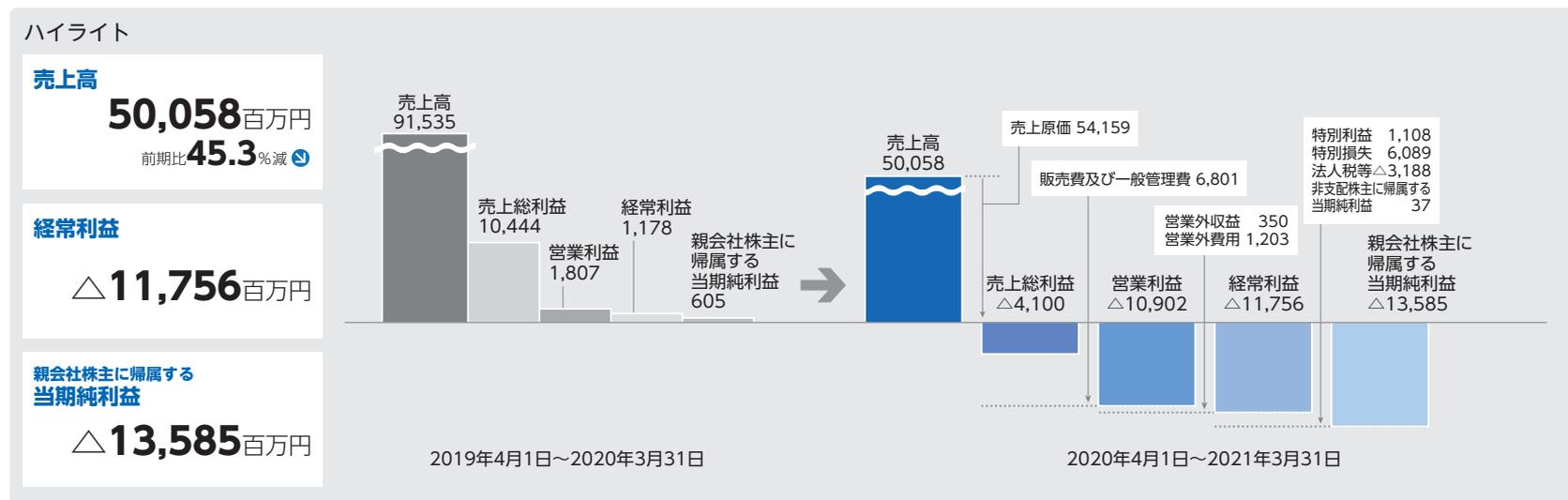
## 2021年3月5日 事業継続計画(BCP)「災害版」の 訓練を実施

当社グループの重要な国内生産拠点が被災する可能性を前提に、地震に限らず水害・津波等も想定した内容とするべく2020年9月1日付で事業継続計画「災害版」を改定し、これを基に訓練を実施しました。



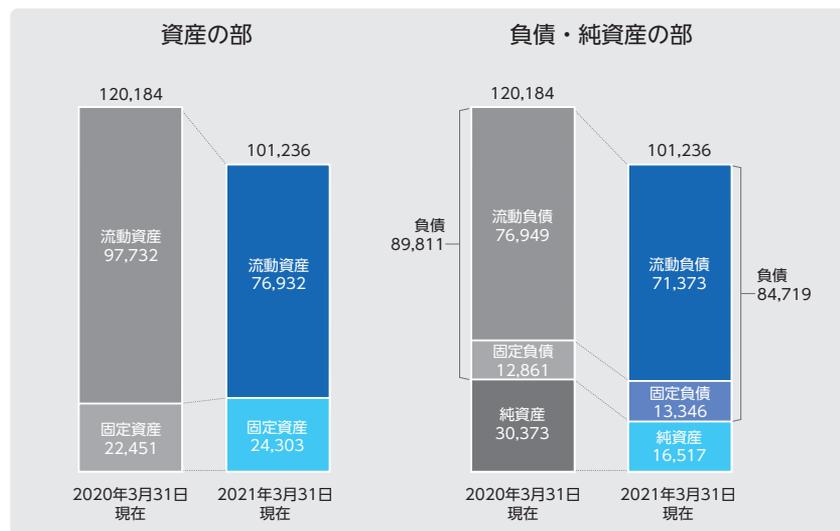
連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)



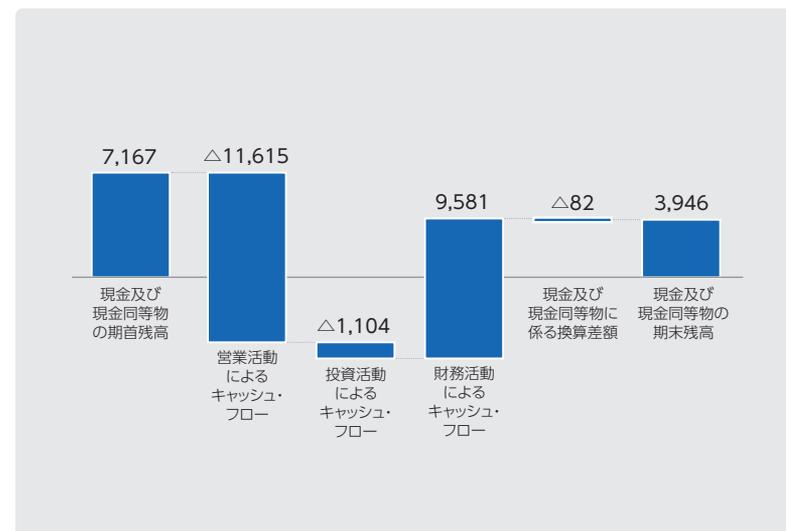
連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)



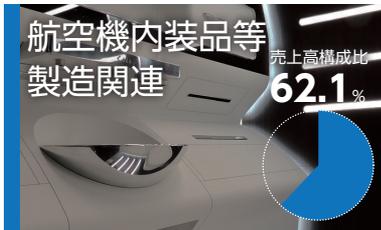
連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

2020年4月1日～2021年3月31日 (単位：百万円)



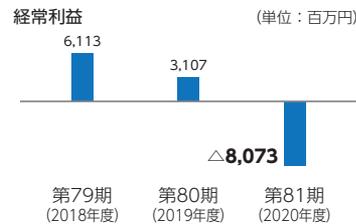
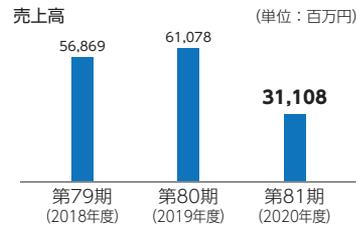
詳細な決算情報は、右記のQRコードから当社ホームページにアクセスいただき、「IR資料」からご覧いただけます。

<https://www.jamco.co.jp/ja/ir/materials.html>



主な事業

ギャレー  
ラバトリー  
ギャレーインサート



ポイント

売上高

- 感染症拡大の影響による航空機メーカーの減産や生産スケジュールの変更により、ギャレー及びラバトリーの出荷が減少
- 航空機の運航が減少したことから、エアライン向けの客室改修用キットやスペアパーツ販売が減少

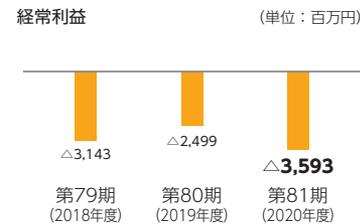
経常利益

- 売上高減少などにより経常損失



主な事業

プレミアム・シート  
シートコンソール



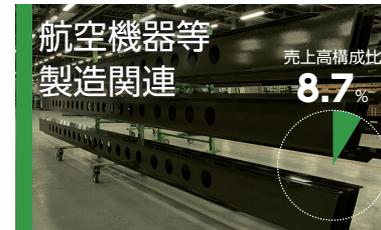
ポイント

売上高

- 感染症拡大の影響で一部プログラムの出荷が翌期に繰り延べられたことや顧客による一部キャンセルなどにより売上高は減少

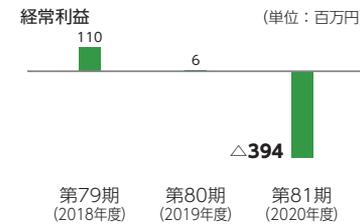
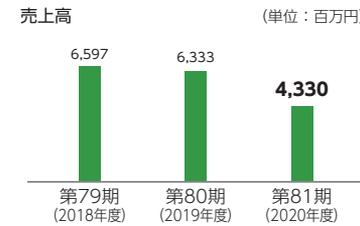
経常利益

- 売上高減少などにより経常損失



主な事業

空調用機器等  
航空機用エンジン部品  
航空機用炭素繊維構造部材



ポイント

売上高

- 感染症拡大による影響で民間航空機向け製品の炭素繊維構造部材や航空機エンジン部品の出荷が減少

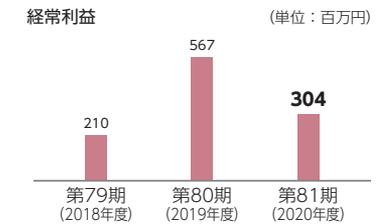
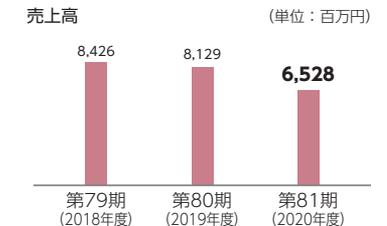
経常利益

- 売上高減少などにより経常損失



主な事業

機体整備・改造  
装備品整備等



ポイント

売上高

- 機体整備においては一部プログラムの出荷が翌期に繰り延べられたことにより売上高は減少
- 装備品整備においては感染症拡大による影響でエアラインからのホイール、ブレーキ等の受注が減少

経常利益

- 売上高減少などにより経常利益が減少



# 「Project Blue Sky」

— 航空業界・ニューノーマルへのJAMCOからの提案 —

## 最速で客室を貨物室へ

### Temporary Cabin Cargo Conversion Cargo On Floor

ジャムコグループが進めるニューノーマルへの提案「Project Blue Sky」の取組みの一つである客室改修サービスをご紹介します。

新型コロナウイルス感染症対策による世界的な渡航制限で、航空旅客需要は急激に減少しました。

一方、航空貨物需要は堅調で、各国の航空会社では客席を減らして貨物室を増やしたいというニーズが高まっています。

このようなご要望にお応えして、旅客機から客席を取り外した床に貨物を積むための改修を迅速に行うサービスをご提供しています。

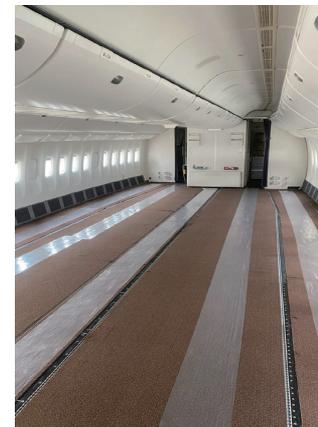
この度、JAMCO AERO DESIGN & ENGINEERING PTE LTD.とシンガポール航空は、これまで培ってきた航空機の客室改修のノウハウを活かして、シンガポール民間航空庁(CAAS)から追加型設計承認(STC)を取得して、ボーイング777-300ER型機の客室を貨物室に変更する最初のプログラムを完了しました。

又、CAAS STCは、アメリカ連邦航空局(FAA)／欧州航空安全庁(EASA)からのSTCへ展開することが可能であり、欧米向けのサービスも視野に入れております。

今後もニューノーマルへの提案を通じて航空業界の発展に貢献してまいります。



改修前の客室



座席を取り外した床

客室から座席を取り外して、貨物輸送時の積載量を最大にします。



改修後の客室

客室の床に貨物を固定できる装置を取り付けて、貨物を最適なレイアウトで搭載できるようにします。標準のボーイング777-300ER型機と比較して貨物容量は12%向上します。迅速なSTC取得により、短時間で客室から貨物室への変更を実現します。

その他の「Project Blue Sky」に関する取組みについては、<https://www.jamco.co.jp/ja/index.html> 右記QRコードからご覧いただけます。



ジャムコを支える、隠れた「技術」

# ギャレーやラバトリーの壁は紙でできている？

ギャレーやラバトリーの壁にはハニカムサンドイッチパネル(以下「ハニカムパネル」)と呼ばれる材料が使用されており、その芯材はアラミド紙という特殊な紙からできています。このアラミド紙を蜂の巣状に成型し、フェノール樹脂を浸透させハニカムコアを作り、ガラス繊維やカーボン繊維を用いた強化プラスチックの薄板で挟み込むことにより壁材として使用しています。当社では、このハニカムコアを社内で一貫生産しています。

ハニカムパネルは、90%以上が空隙という構造をもつことから、非常に軽量でありながら高い剛性(\*)を持つという特徴があります。航空機に使われるハニカムパネルの使用量は一機当たり数百枚となり、一枚の重さが航空機全体の重量に大きな影響を及ぼします。飛行機は総重量が軽い方が、より少ない燃料で飛行することができ、燃料費の削減につながります。更に、燃料の削減は二酸化炭素排出量を抑制することになり、軽く強いハニカム素材が地球温暖化対策にも大きく貢献しています。

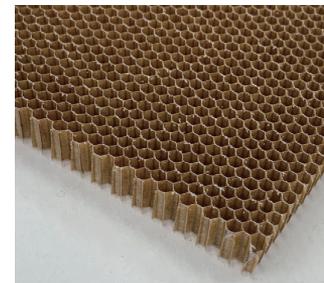
しかし、航空機の客室内の材料としては、単に軽く強いだけでは十分とは言えません。飛行機は地上の乗り物と違い、一度地上を離れば外部から消火することができないため、とても厳しい耐火性が要求されます。なぜなら、飛行中に万が一火災が生じたとしても延焼を防ぎ、最寄りの空港まで飛び続け、更に胴体着陸等によって火災が生じたとしても、すべての乗客・乗員が安全に避難できる必要があるからです。このため、ハニカムパネルは各国の航空局が定める規則に従い、その使用部位・用途に応じたさまざまな耐火性試験を実施し、その試験要求事項を満たさなければなりません。これには、難燃性・自己消火性だけでなく、火災時の高温下でも過度の発熱が無いこと、避難時の視界確保に必要な有害な発煙が無いことなども求められます。航空機内装品には、このような厳しい要求を満足したハニカムパネルを使用しており、搭乗される方々の安全な空の旅に貢献しています。

今後も、当社は脱炭素社会の実現に向けてこれまで以上の貢献を目指し、航空機の軽量化につながる新材料の研究開発を進めてまいります。

\*剛性とは、圧縮・ずれ・ねじれ等の外力に対する物体の変形しにくい性質のことをいいます。



アラミド紙



ハニカムコア



ハニカムサンドイッチパネル



耐火性試験の様子



機体に搭載されているギャレー



## 品質問題の再発防止に向けた取組みの進捗について

当社は、2019年11月12日付「当社航空機内装品製造事業における業務改善命令に対する改善措置の提出について」にて、第三者による特別調査委員会の調査によって明らかになった事実関係とその原因分析及び再発防止策を公表いたしました。

当社としましては、再発防止策で挙げたそれぞれの施策を着実に実行していくために、航空機内装品・機器事業本部長のもと「安全・品質 第一」を掲げ信頼回復に向け、再発防止策の具体的な活動を推進しており、これらの活動については、2020年1月に設置しました安全推進室が継続的にモニタリングし、助言を行っています。

なお、取消/一時停止となっていました公的認証につきましては、2019年度内に回復をしており、2020年度内の継続審査にて認証継続が認められています。

又、2021年1月本社に安全推進統括部を設置して全社に渡る安全文化の更なる醸成を目指しています。



## 安全推進統括部の新設

当社の安全管理体制は、これまで航空機内装品・機器事業本部と航空機整備事業部で独立した体制での運用が行われており、全社で統一されたものではありませんでした。

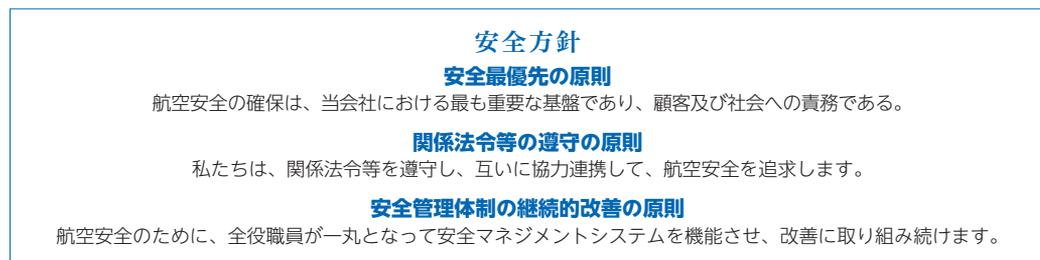
航空業界で生きる会社として「航空安全」を何よりも優先するためには、安全管理体制の見直しが必要であると認識し、「安全管理の本来あるべき姿は、会社として統一した安全管理規程のもとで、全社を統括する組織が安全管理活動を推進していくべき」という考えに基づき、安全管理体制の全社統括を行い、より一層安全マネジメントシステムが有効に機能する体制としました。

具体的には、既存の安全推進組織とグループ会社を統括すべく、2021年1月1日付で「安全推進統括部」を本社に設立し、又、ジャムコグループに共通する新しい安全方針を定めました。

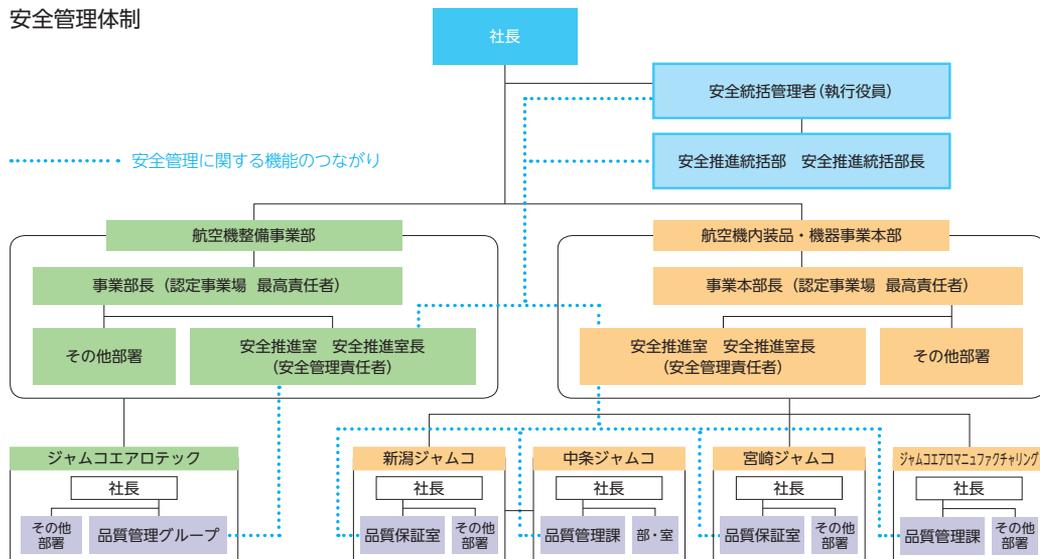
国土交通省から認定を受けた認定事業場においては、これまで事業部ごとに別々に作成・届出していた安全管理規程を統一し、共通の規程として運用を開始しました。

なお、2021年6月からは、国内グループ会社を含めた安全管理体制の全社統一を図りました。

引き続き、当社は航空安全推進に取り組んでまいります。



### 安全管理体制



## E

Environment

## ジャムコグループ環境保全活動の実施

2020年10月、当社は東京都主催の「東京グリーンシップ・アクション」に参加し、八王子滝山里山保全地域において自然環境保全活動を実施しました。「東京グリーンシップ・アクション」は東京都が指定した保全地域において、都・企業・NPO等が連携して行う自然環境保全事業のことです。八王子滝山里山保全地域は、2013年3月に都内で49番目に指定された保全地域で、多様な自然環境が組み合わさった里山環境が残る地域です。当日は、NPO法人自然環境アカデミーによる指導のもとで、当社従業員とその家族が、里山の自然観察、竹の伐採及び池・水路の整備等を行いました。



## S

Social

## 災害備蓄品の寄付

2021年2月、当社は立川市社会福祉協議会へ災害備蓄品の寄付を行いました。この取組みは、災害備蓄品を賞味期限切れとなる前に、食料が必要な方々へ寄付することで有効活用し、フードロスを減らすことを目的としており、今回で2回目となります。寄付した災害備蓄品は立川市社会福祉協議会よりフードバンク立川を通し生活困窮者の方々へ配付されました。



## S

Social

## 使用済み切手の回収・寄付活動

2021年2月、当社は社内で回収した使用済み切手等を認定NPO法人に寄付いたしました。使用済み切手はNPO法人によって専門の業者に1kg=約1,500円で売却され、世界の子どもたちへのワクチン支援活動に活用されます。



## S

Social

## 立川市の中学生向けに社会科見学を実施

2021年3月、当社は立川市の中学校からの要請に基づき、中学生向けに社会科見学を実施いたしました。社会科見学では当社の事業内容の説明や航空機シートやラバトリーのモックアップ(実寸模型)の案内を行いました。

引き続き、当社は地域貢献に取り組んでまいります。



## 「CSR/SDGs研修」を実施

2020年11月にCSR/SDGsの社内周知・浸透のため「CSR/SDGs研修」をeラーニング学習システムで実施しました。SDGsとは「Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標」として2015年決定の国連文書に盛り込まれた概念で、政府、自治体、企業、すべての関係者が自主的に取り組むものですが、当社ではその取組みを強化してまいります。

## 会社概要

## ✈ 会社概要 (2021年3月末現在)

商号	株式会社ジャムコ
本店	東京都三鷹市大沢六丁目11番25号
本社	東京都立川市高松町一丁目100番地
設立年月日	1949年3月15日
創立年月日	1955年9月1日
主な事業内容	航空機内装品等製造関連 ギャラリー、ラバトリー、ギャラリー搭載用各種装備品等の製造 航空機シート等製造関連 航空機シート及びシートコンソール等の製造 航空機器等製造関連 熱交換器、航空機用炭素繊維構造部材、民間航空機エンジン部品等の製造 航空機整備等関連 航空機の機体、装備品等の整備・改造
資本金	5,359,893千円
従業員数	連結：2,649名 個別：1,224名

## ✈ 役員／執行役員 (2021年6月25日現在)

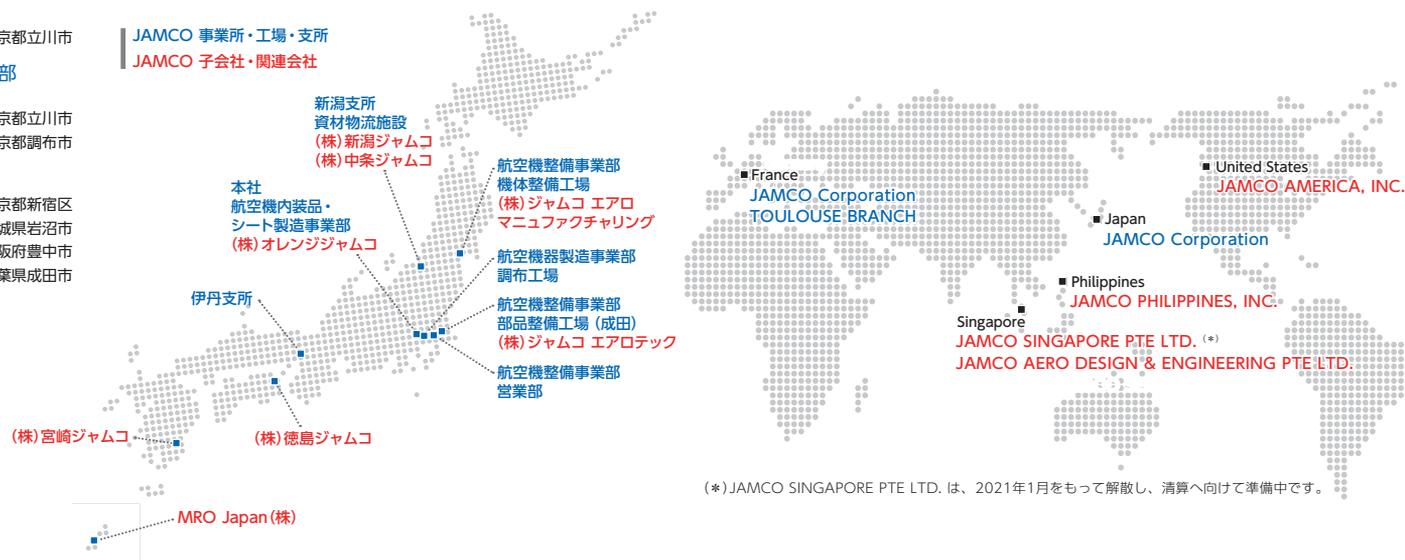
代表取締役社長	大喜多 治年	副社長執行役員	阿部 俊之
代表取締役副社長執行役員	米倉 隆	常務執行役員	加藤 正道
取締役専務執行役員	木村 敏和	常務執行役員	市原 一義
取締役専務執行役員	田所 務	執行役員	内城 浩
取締役常務執行役員	後藤 健太郎	執行役員	脇 昭博
取締役常務執行役員	粕谷 寿久	執行役員	神山 行雄
社外取締役	瀬川 夏樹	執行役員	小澤 恵治
社外取締役	辻 浩平	執行役員	桃園 健志
社外取締役*	鈴木 伸一	執行役員	木本 幸浩
社外取締役*	渡辺 樹一	執行役員	板倉 潮
常勤監査役	磯上 範好	執行役員	小出 三郎
常勤監査役	蕪木 昇		
社外監査役*	高橋 均		
社外監査役*	渡邊 浩一郎		

\*東京証券取引所の規定する独立役員です。

## 事業拠点 (2021年6月25日現在)

## ✈ 事業所／子会社／関連会社一覧

本社	東京都立川市
航空機内装品・機器事業本部	
■航空機内装品・シート製造事業部	東京都立川市
■航空機器製造事業部	東京都調布市
航空機整備事業部	
■営業部	東京都新宿区
■機体整備工場	宮城県岩沼市
■伊丹支所	大阪府豊中市
■部品整備工場	千葉県成田市



(\*) JAMCO SINGAPORE PTE LTD. は、2021年1月をもって解散し、清算へ向けて準備中です。

## 株式の状況 (2021年3月末現在)

## 株式数・株主数・上場取引所

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	26,863,974株
株主数	6,656名
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部(証券コード7408)

## 株式分布状況



所有者別	割合	株数
その他の法人	62.05%	16,668千株
個人・その他	24.45%	6,568千株
外国法人等	3.10%	832千株
金融機関	9.19%	2,468千株
金融商品取引業者	1.07%	286千株
自己名義株式	0.15%	38千株

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711(通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="https://www.pronexus.co.jp/koukoku/7408/7408.html">https://www.pronexus.co.jp/koukoku/7408/7408.html</a> (但し、電子公告によることができない事故、その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) なお、計算書類及び連結計算書類に係る情報は、インターネット上の当社コーポレートサイト ( <a href="https://www.jamco.co.jp/">https://www.jamco.co.jp/</a> ) においてご覧いただけます。

## ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできません。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にお問い合わせください。

## 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	8,956	33.38
ANAホールディングス株式会社	5,373	20.03
昭和飛行機工業株式会社	2,003	7.46
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	524	1.95
ジャムコ従業員持株会	446	1.66
株式会社みずほ銀行	200	0.74
株式会社三菱UFJ銀行	200	0.74
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口5)	179	0.66
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口6)	158	0.59
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	147	0.55

(注) 持株比率は、自己株式(38,964株)を控除して計算しております。



# 手を触れずに出られる ラバトリードアハンドルの導入開始

2021年4月28日、当社と全日本空輸株式会社(以下「ANA」)は、世界で初めてとなる手を触れずに出られるラバトリードアハンドル(機内トイレのドア) (以下「ドアハンドル」)をANA国内線機材に導入することをプレスリリースしました。

当社とANAが共同で開発に取り組んだドアハンドルはすでにANAの国内線に導入され、今後、ボーイング787型機等合計21機の国内線中・大型機に順次導入される予定です。その他の機種への導入についても現在、検討されています。

ドアハンドルの導入により、乗客は手のひらや指でドアに触れることなく、腕や肘を使用して簡単にドアを開けることができ、手洗い後の清潔な状態で座席に戻ることが可能となります。



当社とANAは2020年5月よりドアハンドルの開発に取り組んできました。2020年7月～9月には羽田空港のANAラウンジにラバトリーの実寸模型を展示し、実際に航空機利用者にドアハンドルを体験していただき、アンケートを実施いたしました。アンケートの結果、約7割を超える方から「良い」という評価をいただくことができました。

一方で、初めてハンドルやロックを見る方から使用方法が分かりづらいといった声や、ハンドルの高さは妥当かというご意見をいただきました。そこで、ドアハンドルの形状やプラカード絵文字の配置等を工夫すると共に、新たに小学生や障がいを抱える方を対象に検証を行い、問題なく使用できることを確認しました。他にもドアハンドルに過度な力が掛かっても壊れないか、指を挟んで怪我をする危険はないかといった各種試験を行い、厳しい安全基準を満足し、今回の実用化に至りました。

当社グループは、「Project Blue Sky」のもとで、お客さまが航空機に搭乗する際に抱く不安を少しでも解消できるように、清潔で衛生的なキャビン作りのための製品の開発に引き続き取り組んでまいります。



## 株式会社 ジャムコ

〒190-0011 東京都立川市高松町一丁目100番地  
TEL:042-503-9900 (代表)

※本資料に記載されております当社の計画や予測等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に判断したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。  
※本資料で使用している文章、写真等の無断での複製・転載を禁止します。



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用しています。